

寄生虫かるたを用いた卒前・卒業教育に対するニーズ調査と評価

◎松村 隆弘¹⁾
学校法人北陸大学¹⁾

【背景と目的】 国内では衛生環境の改善や糞便検査の徹底により寄生虫感染症が減少し、これに伴い寄生虫を学ぶ機会が臨床や教育現場で減少している。しかし、寄生虫感染症が国内から消える可能性は低く、寄生虫検査の知識と技術の維持は重要である。本研究では、卒前・卒業教育向けに「寄生虫かるた」という教材を作成し、実際に社会人臨床検査技および学生のニーズ調査をアンケート形式で実施し、評価した。

【対象と方法】 対象は社会人および本学部学生とし、「寄生虫かるた」を配布しアンケートの回答を求めた。「寄生虫かるた」は全68枚(線虫16枚, 条虫11枚, 吸虫14枚, 原虫27枚)とし、表面は写真, 裏面は対応する寄生虫の概略をデザインしたものを使用した。アンケート解析には統計解析ソフトウェア Statistical Package for Social Science (SPSS) を使用し, クロス集計を実施した。

【結果】 社会人29名, 学生137名から回答が得られた。社会人の65.5%が内部精度管理のフォトサーベイ向けに有用と評価し, 55.2%が特定の技師向けにニーズがあると回

答した。一方, 学生の64.9%は「寄生虫かるた」を試験の対策に有用であると評価した。また, 寄生虫学に対して「嫌い・どちらでもない」と答えた技師でも, 面白そう(10/20名), 気軽に取り組みそう(12/20名), 分かりやすい(10/20名)などの好意的な回答を得ることができた。同様に学生でも, 面白かった(25/65名), 気軽に使えた(49/65名), 分かりやすかった(39/65名)などの好意的な回答を得ることができた。デザインに関しても「見やすい, わかりやすい」という回答が多く得られた。

【考察】 本研究から, 社会人においては内部精度管理の向上に寄与し, 学生においては医動物学の知識の補完と苦手意識の軽減に貢献する教育ツールであることが示唆された。また, 今後も教育ニーズの変化に対応するために, 寄生虫教育ツールの開発と改善に取り組むことが不可欠と考える。

(連絡先 076-229-1161)